

第13回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和56年7月8日（水）
午後2時～3時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 静止気象衛星2号（GMS-2）用アポジモータの射場における検査の結果について

4. 資 料

委-13-1 第12回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

委-13-2 GMS-2用アポジモータの射場点検整備結果について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

〃 委員

〃 〃

〃 〃

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

説明者

宇宙開発事業団理事

〃 エンジン開発グループ総括開発部長

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

文部省学術国際局審議官

平 木 一

中 西 英 彰

加 藤 泰 丸

大 崎 仁

（代理：横山）

通商産業省機械情報産業局次長

運輸省気象庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

宇宙開発事業団衛星設計第2グループ総括開発部長

〃 システム計画部

〃 構造開発グループ

〃 エンジン開発グループ

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

〃 〃 宇宙国際課長

〃 〃 宇宙開発課長

宮 本 治 男

（代理：吉田）

栗 山 昌 久

（代理：里見）

高 橋 幸 男

（代理：木原）

田 中 淳七郎

（代理：石原）

市 川 洋

大 野 信 幸

福 島 幸 夫

斉 藤 紀 男

吉 村 晴 光

中津川 英 雄

吉 野 隆 治

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第12回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案（資料委-13-1）が確認された。

(2) 静止気象衛星2号（GMS-2）用アポジモータの射場における検査の結果について

宇宙開発事業団の平木 一 理事及び中西英彰 エンジ

ン開発グループ総括開発部員より、資料委-13-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

井上：静止気象衛星2号（GMS-2）に用いるアポジモータは特注品か、既製のものか。

平木：既製のものであるが、GMS-2に合うように、推進薬量を調節している。

井上：リークの規格が厳しいものとなつているが、どのような理由で決められたものか。

平木：アポジモータの信頼性を高めるためには、リークはできる限り小さくすることが望ましい。規格値は現在用いられている検査方法によつて確実に検知できるリークの量として設定したものと思われる。米国の衛星メーカーがアポジモータのメーカーからアポジモータを受け入れる際にこの規格を採用している。なお、たとえ、この程度のリークがあつても、燃焼時間が短いので、問題ないと考えている。

井上：アポジモータの国産化は進んでいるか。

平木：試作試験を重ねているところである。今まで、航空・海上技術衛星（AMES）を目標としてきたが、今後は技術試験衛星V型（ETS-V）に目標を変えたいと思つている。

斎藤：ヨーロッパでは、最近、独自に開発したアポジモータで衛星の軌道投入に成功したようだが、日本のアポジモータ国産化はもつと早くならないか。

平木：鋭意努力している。